



イチゴのアザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類

など病害虫の発生に十分注意しましょう

病害虫発生予報2月号(病害虫防除所)によると、1月下旬現在、アザミウマ類の寄生花率(本年1.6%、過去6年平均0.03%)、発生地点率(本年40%、過去6年平均2%)ともに平年よりやや高い~高い。また、アブラムシ類の寄生葉率(本年3.3%、平年1.6%)は平年よりやや高く、発生地点率(本年40%、平年10%)は平年より高い。さらに、コナジラミ類の寄生葉率(本年0.9%、平年0.3%)、発生地点率(本年20%、平年13%)ともに平年よりやや高い状況で、**2月の発生量はアザミウマ類が平年よりやや多い~多い、アブラムシ類やコナジラミ類が平年よりやや多い発生になると予測しています。**なお、1月下旬現在では、例年問題となるうどんこ病やハダニ類は平年並の発生状況で、2月もそのままの発生量で推移すると予測しています。

このため、各種病害虫の早期発見に留意し、事前の予防や発生初期の防除徹底に努めてください。

＜アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類、うどんこ病など防除のポイント＞

- 1) 発生を見逃さないよう、葉裏や葉柄、果梗、果蕾などを丁寧に観察して早期発見に努めてください。
- 2) 発生を確認したら、早期に薬剤防除を実施します。**葉裏や下葉にもよくかかるよう、株全体に丁寧に散布します。**
- 3) 薬剤散布は、葉かきをした後、発病や寄生した葉、果梗、果実等を摘み取った後に行うと効果的です。
- 4) 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、**気門封鎖剤を除く同一分類(コード)の連続散布は避けてください。**
- 5) **ミツバチや天敵を放飼の場合は、薬剤の影響等について、メーカーや関係機関等から必ず指導を受けてください。**

表1 イチゴ アザミウマ類やアブラムシ類、コナジラミ類の主な防除薬剤 (令和5年1月31日現在)

薬剤名	アザミウマ類	アブラムシ類	コナジラミ類	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
グレーシア乳剤	○			2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	—	30
ベネビアOD	○	○	○	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	—	28
ディアナSC	○		○	2,500~5,000倍	収穫前日まで / 2回以内	3日	5
				2,500倍			
モスピラン顆粒水溶剤	○		○	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	4A
		○	2,000~4,000倍				
モベントフロアブル	○	○	○	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	23
チェス顆粒水和剤		○	○	5,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	9B

注1) 表1、2、3のミツバチ※は、ミツバチへの影響の目安を茨城県病害虫防除指針(令和4年版)より抜粋しました。

○は薬液が乾けば影響なし、その他は影響日数を記載しましたが、天候、施設内の環境条件(温度、換気等)により日数の前後することがあり、注意が必要です。なお、—は指針に記載なしです。

注2) 表1、2、3の分類欄には、FRACまたはIRACコードを記載しました(コードが2つは、混合剤です)。

表2 イチゴ ハダニ類の主な防除薬剤 (令和5年1月31日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
コロマイト水和剤	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	6
カネマイトフロアブル	1,000~1,500倍	収穫前日まで / 1回	○	20B
スターマイトフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	25A
マイトコーネフロアブル	1,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	20D
サンヨール	500倍	収穫前日まで / 6回以内	○	—
粘着くん液剤(デンペン)	100倍	収穫前日まで / —	1日	—

注) 気門封鎖剤(粘着くん液剤など)利用の注意点: ①薬剤によりマルチの汚れや果実薬害を生じることがあるため、各薬剤の特性をよく確認する。②ハダニ類に直接かからないと効果がないため、株全体に丁寧に散布する。③ハダニ類成虫には有効だが、卵には十分な効果がないので、残った卵からふ化した成虫を防除するためには、5~7日間隔で数回散布する。

表3 イチゴ うどんこ病の主な防除薬剤 (令和5年1月31日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
フルピカフロアブル	2,000~3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	9
パレード20フロアブル	2,000~4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	○	7
トリフミン水和剤	3,000~5,000倍	収穫前日まで / 5回以内	○	3
パンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	○	U6と3
ジーファイン水和剤	750~1,000倍	収穫前日まで / —	○	NCとM1

※その他、施設内では硫黄粒剤のくん煙処理が可能ですが、その際は専用の電気加熱式くん煙器を利用してください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。